

「新たな教職員の学びの姿」の実現に向けた調査研究 ー研修評価データ分析による豊かな気づきを生み出す研修の在り方についてー（1年次/2年）

I 目的

中教審答申が示す「新たな教師の学びの姿」を実現するため、研修担当者（指導主事）の研修観を「知識伝達型」から「豊かな気づきの醸成」へと転換し、エビデンスに基づいた研修デザインを構築する。

「研修観の転換」の仕掛けがうまくできているか不安
 「豊かな気づき」を生み出す研修の工夫とは？



指導主事

II 内容

1年次の取組

- ・指導主事意識調査から研修観に関する傾向や課題を把握
- ・研修デザインに関する「学び直し（カタリバ）」の立案と実施
- ・研修評価データや意識調査から受講者の傾向と課題を把握
- ・初年度のまとめと新たな研修観に基づく研修デザインの構築

【意識調査における指導主事の声】

- ・指導主事同士での対話、受講者の立場として研修へ参加、外部の取り組みを実際に見る機会があったことで、自分自身の研修観が揺さぶられ、自然と自分自身と向き合う時間が多い1年だった。
- ・モヤモヤと「悩む時間」は非常に大切なことだと感じる。次の日に解決するかもしれないし、数年かかるかもしれない。その解決に喜びや楽しみを得られるような人材育成ができればと思う。

1年次の成果

- 指導主事同士が語り合える学びのコミュニティが形成された。
- データの多角的な分析により、エビデンスに基づく研修改善の見通しが立った。
- 「豊かな気づき」を生むための具体的な工夫例が蓄積された。

2年次の展望

- ◆指導主事の学び直しの計画的実施とプログラムのブラッシュアップ
- ◆1年次の研究に基づく新たな研修デザインの実施と検証
- ◆研修評価データの分析の視点や方法の共有と評価項目の再検討

実施時期	指導主事の「学び直し（カタリバ）」主な内容	意識調査
5～7月	・研修観の交流や運営に関する困りの共有	
8～9月	・研修マネジメント力協働開発プログラム参加 ・前期研修の振り返りと共有	第1回
10～12月	・生成AI活用に関する交流 ・資料作成の工夫に関する交流	
1～2月	・研修評価データと受講者意識調査結果の交流	第2回
3月	・1年の振り返り	

研修評価データから見る成果例

研修対象	主な工夫点	受講者の変容（記述より）
初任者	前回の振り返り、自己	◎「学び続ける教師」としての自覚と使命感、理論の重要性等を実感
ミドルリーダー	イントロ&リフレク ションの工夫と対話	◎内省と対話によって自己の在り方を再確認し、新たな目指す姿を確立

【初任者研修受講者の声】

- ・課題に向き合いながら学びを重ねることで、十分とは言えないまでも、様々な場面で実践に生かすことができるようになった。
- ・学び続けることの意義を感じられた。また、無知であることの勿体無さや怖さを感じることも多く、情報に対する日々の自分の姿勢が変化したと感じた。
- ・自分の位置を客観的に見ることでできる活動を何度も用意して頂いてありがとうございました。

【学校ミドルリーダー研修受講者の声】

- ・自分の役割に目がいきつつあったが、研修での学びによって全体に目を向けていくことがこれからの自分に必要なことだと思えたし、自分の成長につながると感じられた。
- ・研修が講義演習だけで終わらず、内容を咀嚼し自分に引き付けて考える時間を持つことの意義が分かった。



※詳細は、教科研修・ICT推進部「新たな教職員の学びの姿」の実現に向けての調査研究（1年次/2年）報告を参照